

前橋市立前橋高等学校

めぶく

地域活性化プロジェクト



めぶく6号
探究通信
10月号
H P

各クラスに配属される前橋国際である。つまり、自身もまた、経験があるというところがある。の強みであるとともに、喜びでた卒業生が在校生に関わって



大学の学生たちは本校の卒業生が中心本校在学の2年時に模擬市長選を行うこの形で事業を進められることは本校もある。太学で学び、一回り大きくなっく姿に頼もしさを覚えるからだ。

模擬市長選挙の準備が本格始動

2年生、12月に向け高大連携でワークショップ

10月21日(木)に本校各クラスで模擬市長選挙のワークショップが行われた。共愛学園前橋国際大学の学生5名が来校(1名はオンライン参加)し、各クラスでミニフェスト作成支援を行った。生徒たちは10月7日(木)に「ブレインストーミング」(以下「ブレスト」)にて、前橋市活性化につながるアイデア出しをしております、それをミニフェストの形に落とし込んでいく。



各クラス配属の前国大生が立案を支援(上) 高商大生がブレストカードでのアイデア出しを見守る(下)



ブレストは5人1組の班を作り3会場にて、高崎商科大学の鈴木洋文先生、羽鳥広平先生、下田寛太先生と学生3名の御協力と御支援の下、活動的に行われた。

活動の際は「ブレストカード」を用い、引いたカードを元に「昨夜見た夢」や「史上最低の前橋市」について話したり、意見を出し合ったりした。アイデア

1年生も高大連携

企業フィールドスタディの事前指導

9月30日(木)と10月21日(木)には1年生を対象に「まちなかりサーチ」の事後指導と「市内企業フィールドスタディ」の事前指導という位置づけで講演会を行った。初回は高崎商科大学の羽鳥広平先生による



をより多く出すこと、また、仲間が意見を言いやすい空気を作ることに重点を置き、多様な考えを認め合い、可能性を拡げる活発な話し合い活動が展開された。活動の最後には「史上最高の前橋市」について班でまとめる時間をとり、市長選に向けた良いスタートを切った。前橋国際大学の学生たち

には、各クラスの市長候補として出馬してもらっただけではなく、アイデアのエビデンスや情報提供、選挙演説(と応援演説)の準備についても協力してもらう。本事業はいわば、学生と本校の生徒がチームを組み、自分たちが立てた候補者を当選させるための尽力する、クラス対抗戦となっている。

「サプライチェーンとインバリューン」について、第2回は前橋国際大学の鈴木鉄忠先生による「見知らぬ私の地元」の探究インタビューの方法と分析」が行われた。

1年生は11月4日(木)に株式会社マイナビ運営によるFocusシステムを活用したフィールドスタディ(会社見学・職場体験)を行う予定である。この事業は市内企業31社(うち2社はオンライン)に伺い、地元企業について研究し、職業についての関心を深めるとともに、地域の現状や課題について学ぶという取り組みである(実施後には「報告会」を予定している)。

生徒たちは講演にて企業と地域のつながりや効果的なインタビューの手法について学んだ。21日には、企業調べをしつつ、当日にすべき質問を作成した。また、実践として鈴木先生のゼミの学生たちにも協力していただき、インタビューの練習を行った。佐藤穂果さん(荒砥中出身)は「インタビューをする際に意識するポイントを教わった。考えがまとまりやすくなるので参考になった。(フィールドスタディ)当日の不安が和らいだ」と話した。